



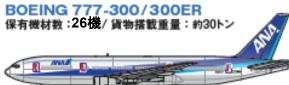


貨物専用機材である Boeing767-300Fをはじめ、全240 機を使用

※保有機材数:2015年1月30日現在 BOEING 767-300BC Freighter / 300 Freighter 保有機材数:10機/貨物搭載重量:約50トン NA Cargo

本邦で唯一のコンビネーションキャリア







BOEING 787

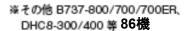
保有機材数:34機/興物搭載重量:約18トン



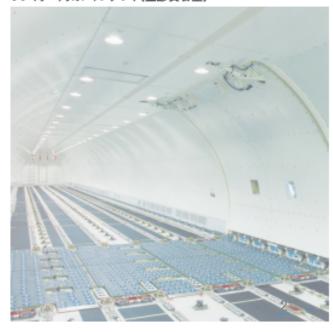
BOEING 767-300/300ER 保有機材数:44機/貨物搭載重量:約12トン



AIRBUS A320-200 保有機材数:12機/貨物搭載重量:約3トン



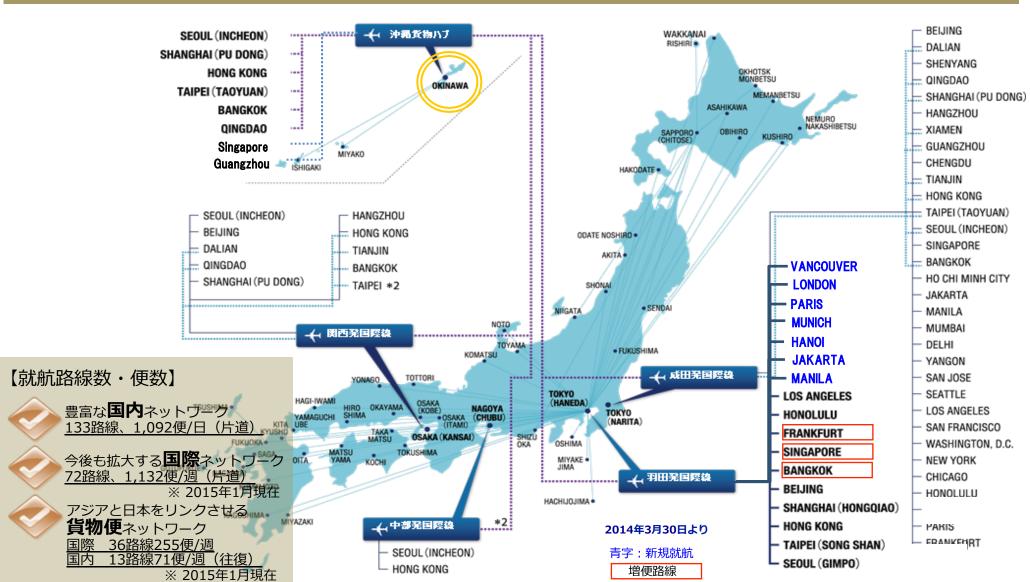
フレイター内のメインデッキ(上部貨物室)







■ 航空貨物ネットワーク(旅客便・フレイターを組み合わせ、世界36都市、国内50都市を繋ぐ)





2015年3月13日(金)

2007年、第1次安倍内閣が打ち出した

「アジアゲートウェイ構想」



「国際物流拠点形成」構想を 推進する 沖縄県



ANA

アジア主要都市を繋ぐ 国際航空貨物ネットワークの 構築を目指す ANA

両者の戦略が一致



2015年3月13日(金)

- ▶ 2007年7月5日
- : 「那覇空港の国際物流拠点形成に関する合意」を締結
- ▶ 2009年10月26日
- : 沖縄県との協業での事業展開を開始









なぜ、沖縄なのか?

20億人の巨大マーケット

その中心に位置するのが沖縄県

- 地理的優位性
- 2 24時間運用の高機能空港
- ❸ 整備が進む物流インフラ

21世紀 空の「万国津梁」へ





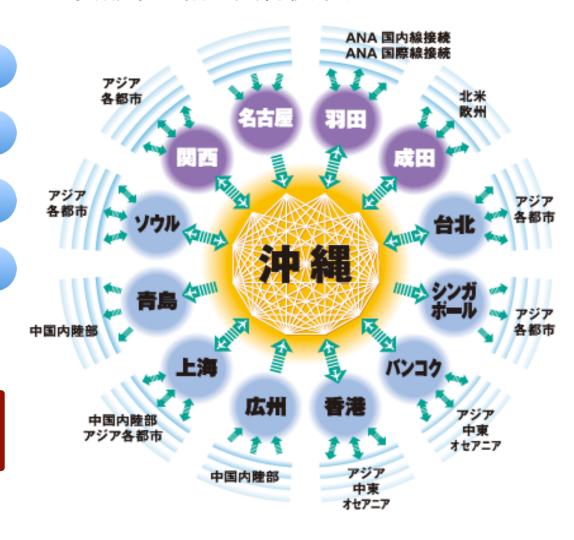
2015年3月13日(金)

沖縄貨物ハブ ネットワーク

那覇空港を基点に日本とアジアの主要都市を結ぶ貨物便ネットワーク

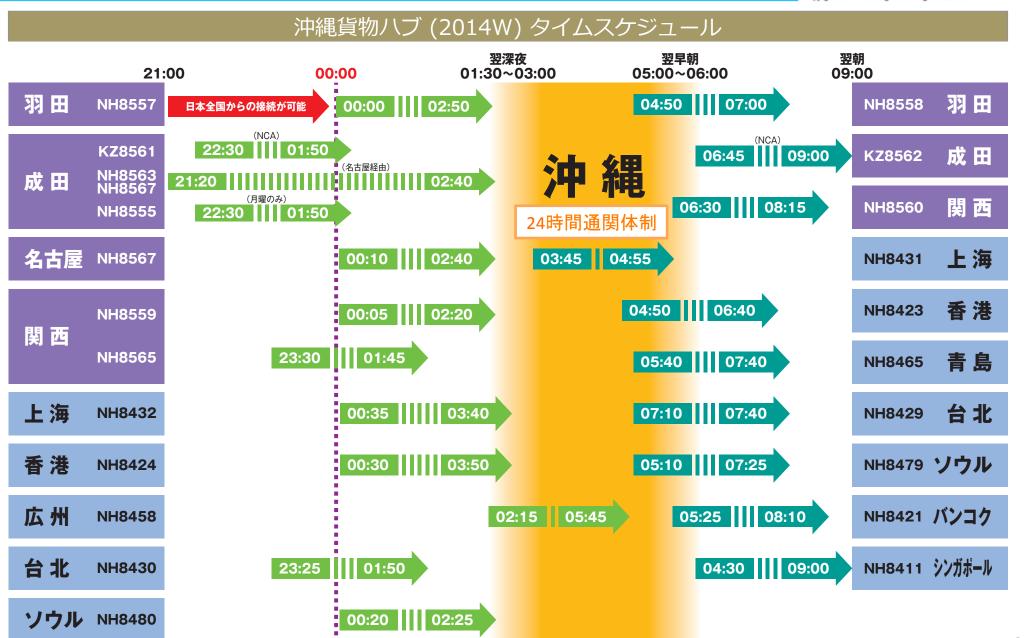
- ① 貨物専用機(B767-F)をアジア主要都市へ深夜運航
- ② 羽田経由で日本国内の主要都市への接続もスピーディ
- ③ 国内20の直行旅客便路線あり。(羽田に次ぐ国内2位)
- ④ アジア域内間の急送ニーズにも対応可能

[ハブ&スポークによるネットワーク効果] 12都市全65路線 (2014W)





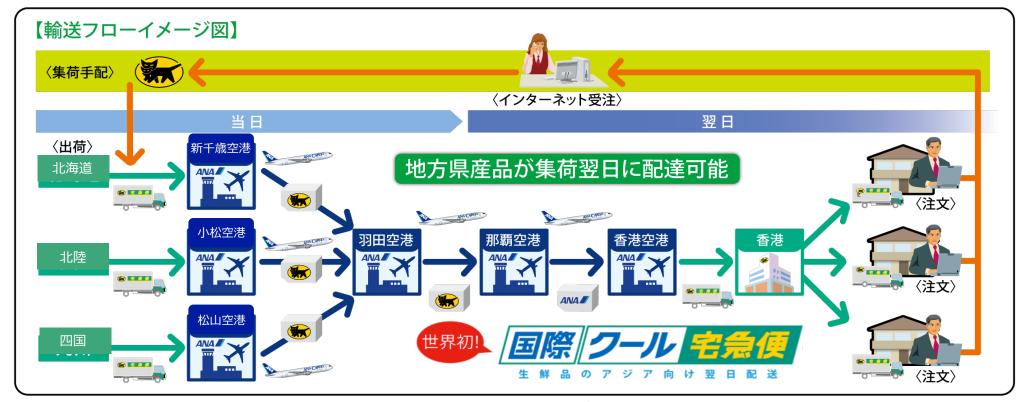






■ ヤマトとANAが日本各地の名産品をアジアへ輸出する輸送プラットフォームを構築

- ●e-commerceサイトモールを活用し、直接消費者からオーダーを受注
- ●ヤマトの陸送ネットワークを活用し、生産者から直接消費者の自宅まで配送
- ●ANA国内線ネットワークと沖縄貨物ハブの接続により、地方からもスピーディーな輸送が可能に
- ●保冷コンテナ、保冷車の活用によりDoor to Doorで厳密に温度コントロールされた輸送を実現



- ▶ 2013年10月に「国際クール宅急便」香港向けのサービスを開始
- 2014年度中に台湾向け、シンガポール向けに新たにサービスを展開予定





■ Yahoo!香港とのタイアップ **YaHoO!**

■ 目的 : 日本のプレミアム食品(生鮮品中心)の海外販売促進の為、 ヤマトグループとYahoo!香港が新たにサービス展開。

■ サービス開始: 2013年 6月1日~

■ 取扱商材 : 日本全国の主に生鮮品、魚介類、肉類、輸入可能な加工品(禁制品を除く)

■ 購入者像 : 香港の中間所得層以上の個人。



これまでに農水産品関連において約300品目、約6,000件の輸出を実施 (※Yahoo HKのみの実績)





■その他 過去に販売した人気商品

和歌山産 「桃」

長野産 「リンゴ」

愛媛産 「日本酒」「マグロ」

宮崎産 「マンゴー」

香川産 「いちご」 香川産 「ぶどう」

北海道 「水産品」

等

消費者の日本産品へのニーズは、「安心・安全・おいしい」から「四季」を味わいたいニーズへと変化

高品質な農水産品輸出

安心 安全 おいしい

個々の二ーズの高度化・多様化

日本の「四季」の輸出へ







沖縄をパーツセンター、ストックポイントとして活用

ANA の沖縄貨物ハブと沖縄物流特区へのストックポイント設立により、顧客から夕方以降にオーダーが入っても 翌朝にはアジアの主要都市に到着! オーダー翌日午前中からの配送が可能に!



【沖縄ストックモデルフロー】



東京近郊の倉庫に在庫を保管している場合の 海外からのオーダーカット時間。

理由:成田からは深夜のフライトが無い。深夜の通関が出来ない。

沖縄なら、 海外からの受注を深夜まで受けられ、翌日朝からの配送が可能。

理由:豊富な深夜貨物便、24時間の通関体制。

4. 沖縄ハブのこれまでと、これから



- ■2007年 ANAと沖縄県で那覇空港の国際貨物拠点化を合意
- ■2009年 那覇空港 新貨物上屋完成
- ●ANA沖縄貨物ハブ事業スタート
- ■2012年 ヤマトグループ 沖縄進出 ●沖縄を活用した「国際宅急便」の運用開始
- ■2013年 楽天・Yahoo!などによる沖縄貨物ハブの活用 ●東芝グループのパーツセンター進出
- ■2014年 沖縄貨物ハブを基点とした、世界初!「国際クール宅急便」サービス開始



- ANA国際貨物八ブ開始
- 沖縄県産品の輸出拡大
- 国際物流拠点産業集積 地域(国際物流特区)の創設
- ロジスティクスセンター等 の企業受入インフラの整備



- 航空路線の拡充
- 国際物流特区の拡大
- 全国特産品流通拠点化推進
- フォワーダーの物流拠点
- EC・通販ストックセンター
- 緊急パーツセンター



- 那覇空港滑走路増設
- 流通・保管・展示・3 P L 等の拠点形成
- 世界的メーカーの物流拠点
- 航空・海運企業の進出 によるネットワークの拡充

ANA Cargoは フルサービスキャリアとして、 多様化、高度化する輸送二一ズに応え続けます。

